

○令和元年度9月議会 和歌山県議会定例会（関連部分抜粋）

（令和元年9月17日）

【中西徹議員 質問（無所属の会）】

横浜市が誘致を正式に発表し3カ所に入る誘致競争が激しくなる中、横浜市の立候補を受けての和歌山県の考え、また、改めて誘致を目指す知事の意気込みを伺う。

【知事答弁】

私は、多くの自治体が立候補しても、候補地である和歌山の和歌山マリーナシティが、全域まず造成済みでありますし、インフラが整っているわけでございますし、関空という日本を代表する国際空港に近接しているわけでございますし、また、関西圏の主要な観光地へのアクセスがいいし、人口密集地にも近いし、マリンレジャー、マリンスポーツの聖地であることなどなどから、ここは非常に優位性があると考えております。

また、複数のIR事業者もそう考えてるからこそ、本県に投資の意向を示してるものだと理解しております。

したがって、3カ所の中の一つに選ばれるという見通しのもと、自信を持ってIR誘致に取り組んでいるところでございます。

県としては、自信が過信になったらいけませんので、国に認定されるように、地域振興に大きく貢献し、国の観光立国政策に資するすぐれた区域整備計画を作成して、他の誘致自治体と正々堂々と競争してまいる所存でございます。

【中西徹議員 質問（無所属の会）】

IR施設内に設置をされるカジノ施設を起因として新たにギャンブル依存症の方を発生させることはゆゆしき事態になると考えているが、この依存症への対策について、どのように考えているか。

【企画部長答弁】

ギャンブル依存症対策につきましては、IR整備法において、マイナンバーカードを利用した入場回数制限や入場料の設定、本人・家族申告による入場制限措置、クレジットカードの使用禁止、現金引き出し機の設置禁止など、重層的で多段階的な厳しい規制が設けられております。

それに加えて、予防教育の実施や依存症対策専門員を配置するほか、本県独自のIRカード導入による破産リスクを排除する仕組みを事業者に求めることにより、カジノ施設を起因とするギャンブル依存症については防ぐことができると認識しております。

【中西徹議員 質問（無所属の会）】

IRの営業が始まれば、交通渋滞に対し危惧される声もある中、今年5月の10連休の際には、大渋滞で近隣の海南市民の方々も大変困っていた。

今年8月の海南市での和歌山県行政報告会の中で知事が話されたように、海南市は玄関口という

認識であるが、マリーナシティへのアクセスについて、交通渋滞対策をどのように考えているのか。

【企画部長答弁】

渋滞対策等につきましては、議員御指摘のとおり、県でもその影響について懸念しているところ
です。

県では、IR への来場者を年間 400 万人と仮定した場合の周辺交通への影響や今春供用を開始した
和歌山南スマートインターチェンジの供用前後の交通量を調査するなど、その対策について調査を
進めているところです。

現状では、通常の IR 営業であれば、周辺の交差点改良等でも対応可能だと考えておりますが、IR
では大規模なイベント等が開催されるため、その対策は別途必要であると認識しております。

県としては、今後予定している事業者公募の中で、MICE 施設の規模やイベント時の運営方法、IR
全体の入り込み客数、その交通手段、駐車場台数や必要となる新たな交通手段など、具体的な施設
規模やアクセス方法等の提出を求め、提案内容を精査していく予定です。

また、事業者選定後には、提案内容を踏まえ、事業者とともに周辺の交通ネットワークを見なが
ら、IR 区域内へのスムーズなアクセスを初め、海南市や和歌山市南部の交通渋滞の緩和や交通安全
対策についても検討してまいります。